まちづくりNEWS

旭川市総合計画市民検討会議

第4分科会　vol.4
平成26年11月7日
（発行元）
旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
旭川市1条通8丁目　フィール旭川7階
TEL/FAX 26-0338
（委託者）旭川市総合政策部総合計画課

第4分科会第4回目の議論！

平成２６年9月２日（火）に,第4回旭川市総合計画市民検討会議第４分科会が開催されました。
平成２８年度からの新たな総合計画の策定に向けた検討を行うために設置された検討会議において，この第4分科会は、これからの旭川市の「産業・交流」についての議論を行っています。
今回の会議では，提言書をまとめるに当たり，各分野について，最終的な意見交換が行われました。主な意見については，以下のとおりです。

提言内容に係る意見交換

①　農業・林業
・農業については，企業との連携も必要になる。農地についても規制を緩和する方向であるので，企業との連携もやっていかないと農業を維持していくことはできないのではないかと思う。

②　製造業・インフラ業
・大企業と地元企業との連携に関する部分で，実際には，地元企業が大企業の下請けや外注になってしまうというイメージを持ってしまった。連携が上手くとれて，技術レベルがアップしていけば更にいいと思う。旭川の加工レベルは高いと思う。

③　商業・中心市街地
・まちなかに行けば何かをやっているとか，何か楽しいことに出会えるかもしれないというようなことをつくっていくということが必要であり，このことが商店街や中心市街地の活性化に結びついていくのではないか。これはプロモーションの強化の部分にもリンクするが，そのようなことが必要であると思う。
・中心市街地に無料の大型の駐車場があるだけで何かが変わっていくような気がするし，いろいろな魅力が付随してくるような気がする。

④　観光業
・一人一人が喜んでもらうためのことを忘れがちであるが，１０００人が参加するイベントがあったとしても，参加する人は一人一人であり，そこを考えていかなければならない。そこをしっかりとやり，本物にしていけば，リピーターとして，よかった，あたたかかった，感動したというものにつながっていくのではないか。何か１つ感動するものがあれば，また来てもらえると思う。
・よさというものは普段の中にある。自分たちにとってはごく普通のことであり，逆に気がつかない。

⑤　交流
・大学の創設について，大学をつくる以上は，極端なことをいえば，全国，海外からも工芸をここで学びたいというような施設にしないとあまり意味はないと思う。
・旭川の教育から産業につながっているものが何かあるかと考えたときに，産業を意識していないような感じを受ける。産業を意識して，教育産業という形で仕掛けていくことも例として悪くないと思う。

フリートーク

○中心市街地に空き店舗がたくさんある。店の使い方などの制約はあるかも知れないが，そこに農産品の直売所をつくる，家具の展示コーナーをつくる等，中心市街地そのものを，旭川をアピールする１つのプロムナードのようなものにするというようなことは，それほど時間がかからずにできるような気がする。

○１０年後を見据えての意見が出たが，行政の方には真剣に取り組んでいただき，我々も一緒に参画をしながら進めていければいいという気持ちである。

○本物の家具をつくったり，本物のお菓子をつくったり，本物の農業体験をしたりするという体験的なイベントがあればすごく魅力があるし，子どもにとっても，また旭川に来たいという気持ちになるのではないかという気がする。やはり子どもたちが旭川に来たいと思えるまちにならないと，将来，明るい旭川にはならないのではないかという感覚を持っている。

○このような会議などの場で，これまでモデルにするケースが多かったのは東京や札幌など，広いエリアのところを参考にすることが多かったと思う。その対極に位置するもっとローカルなところに，まだまだいいものが残っているのだろうという思いもあり，そのような，広い所と狭い所とを行ったり来たりしながら地域のことをもう１度見つめ直す，再構築するというときなのかということも思っている。

○旭川で加工されたものについては，消費者が，旭川でできたものであるということが一目で分かるものがないという気がする。そういうことをＰＲするということも大事であると思う。極端なことを言えば，あさっぴーのシールを貼るなどして，これは旭川のものだということが分かるようにするなどの方法もあると思う。

○人，モノ，金などの資源は今後，限られてくると思うが，分科会で意見が出た施策を１つでも多く，実現することができれば，新たな可能性を開くことができると思う。

○少子化，高齢化が進んでおり，市の施策も，どうしてもそういう分野に力を入れがちになる部分はあると思うが，今回のこの分科会の分野で話し合われたいろいろな施策が実現できれば，本当におもしろいと思う。

○意外性的な部分で観光になっているというところもある。旭川の場合は，どちらかというと，名所型観光であり，名前と場所だけがどんどん高くなり，人が集まってくるという部分がある。そこにもう一工夫仕掛けがあって，そこに食いついて，タイミングよく，上がっていってほしいという思いがあるが，それを逃しているのが今の旭川であるという感じがする。

○次の総合計画は，地域としての旭川の計画をつくっていくこととなると思うが，地域としての計画をつくるということになれば，計画の中の目標の達成に関して，市民の方にも，責任をシェアしてもらわなければならないということがあると思う。

○旭川市は，大きなお金をかけて何かをつくるということをしなくても，今あるものの良さに気付いて，それを上手くアピールしていくことができれば，活性化できるという，日本全国で見ても数少ない市町村であると思う。

○観光業のスポーツイベントのホスピタリティに欠ける運営とロビー活動の不足という部分については，民間のアウトドアブランドなどの企業との協賛や，共同運営という形のイベントの実施をすれば，一定以上の水準は保てるのではないかと思う。

○旭川の１０年後，地球の１０年後といってもよいのかも知れないが，なぜそうなったかということをきちんと反省を踏まえて考えなければならない。そういう時期にきていると思う。正しい社会をつくるためにどうしたらいいかということを本当に真剣に考えないといけない時点に既に来ている。

○旭川のイメージとしては，昔はすごかったなというようなイメージがあり，ここ数年はマイナスのイメージを持っていたが，例えば富良野，留萌，深川の人たちなどからは，旭川には何でもあるから良い，俺たちのあこがれはやっぱり旭川だと言われる。我々も，旭川にはいいものがあるということを再認識して，選択と集中として，民間にやってもらうこと，行政だからすべきことをぜひ整理していただきたい。

○基本的に本物であることが必要であり，我々は，プライドを持って生きていかなければならないと思う。日本は，昔は安全で安心で優しい，素敵な日本であったが，大都会は危険になってきてしまっている。少なくとも旭川は，そういう意味では安心で，１つ１つが本物である。そんなまちを目指したいと思っている。